

編年集成

廿

内閣文庫	
番號	和 10362
冊數	48 (21)
函號	150 2

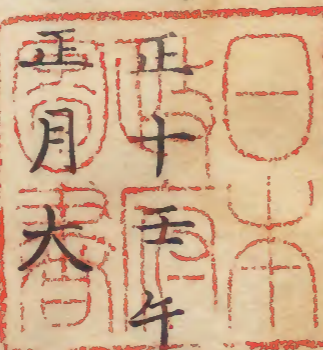
内閣文庫	
架	五
冊	一〇三六二
號	一八三
類	和書



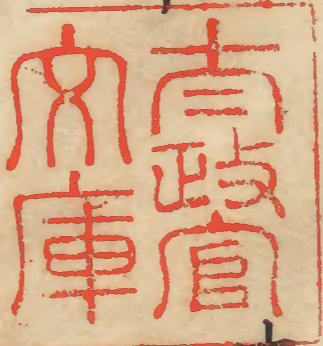


武德編年集成卷之二十

天



年



木村高野撰

羣臣濱松城二登川

神君八歳

首賀又

朔日

二日

六日

御謠初如例

信州木曾福島ノ木曾左馬頭義

昌ハ武田信玄ノ婿夕リ卜雖當時四郎様

頼ヲ恨ル事有テ濃州苗木ノ城主遠山久

兵衛友政ニ據テ其志ヲ織田信忠へ通ス
ル所義昌力室家ニ附属スル千村左京此
事ヲ勝頼カ臣阿部加賀ニ告ル然レ長
坂跡部ノ佞者愚蒙ニ是ヲ信セズ岐阜
信忠ヨリ平野勘左衛門ヲ以テ此事ヲ安
出へ達セラル信長質人ヲ收メ手置堅固
ニノ軍ヲ信州へ發セラルへキ由諭サレ
○十四日 神君岡崎城へ 渡御不日ニ
還御

○十五日 紅氣天ニ彌ル

①註 西川如見云地中溼熱ノ氣蒸升ル中
部ニ黓キ日光ニ映シ紅ノ色ヲ顯ハス
ト云々

○廿五日 伊勢ニ所皇太神宮御造替數
百年中絶ノ所信長平井久右衛門ヲ奉行
トシテ永樂錢三千貫寄附シ是ヲ沙汰ス
へキ旨上部大夫ニ命セラレ又 正遷宮
料トメ入用次第岐阜ノ倉庫ニ往年収置
鷲眼一万六千貫ノ内追々獻セラルへシ
ト信忠へ諭サル其使節ハ森蘭丸長定也

○廿八日 木曾叛逆ノ事實ナルニ仍テ
 甲陽ヨリ武田左馬助信豊三千人仁科五
 郎信盛諏訪越中昌豊等二千人ヲ急ニ發
 シ神保治部ヲ監使トシ義昌ヲ擊シムル
 所鳥居峠ノ嶮ニ據テ嚴ク是ヲ拒キ信豊
 敗績メ神保等多ク死歿ス

二月小

○朔日 信忠ノ先軍トシ瀧川一益河尻
 鎮吉毛利秀頼水野忠重ヲ境目ヘ發シ降
 人ノ質子ヲ求ラル處不日ニ木曾力弟上

松藏人義豊到著ス即菅谷長頼ニ預ラル
 ○二日 勝頼 木曾退治トシ甲陽新
 府ヲ發シ信州諏訪上ノ原ニ著陳ス
 ○三日 信長出陳ノ催シ其觸アリ和州
 勢ハ筒井順慶引卒スヘシ然レモ高野ノ
 壓勢ヲ殘シ吉野口ヲ守ラシムヘシ攝州
 ニハ池田庄三郎信輝足崎ニ在衛シ其子
 二人並ニ中川瀨兵衛清秀信州ヘ出陳ス
 一シ三好笑岩齋ハ四國ヘ渡海スヘシ紀
 州雜賀ノ土橋平治叛ク故去月雜賀孫市

重秀 密旨ヲ蒙リ是ヲ攻ヒス所ニ其
 子二人根來寺ノ千識坊へ馳入防戰ヲ遂
 ルニ依テ援將津田左兵衛佐泉州勢ヲ指
 向ルト雖尚河州烏帽子形ノ兵ヲ遣ハシ
 不日ニ土橋力黨ヲ殲シ益彼兵ヲ以テ紀
 州ノ賊徒ヲ壓ヘシト令ヲ下シ玉フ
 ○六日 信州ノ木曾叛テ武田勢ト合戰
 ス早ク 神君駿州ノ地ニ御動座有ヘキ
 旨酒井左衛門尉是ヲ達ス
 ○九日 織田信長令ヲ下メ曰武田退治

トノ躬ラ七万人ヲ率テ信州伊奈口ヨリ
 向フヘシ嫡男三位中將信忠五万餘人木
 曾口ヨリ亂入スヘシ 神君三万五千人
 駿州路ヨリ甲州下山筋御進發有ヘシ金
 森五郎八長近三千人飛驒口ヨリ責入ヘ
 シト云々則 神君御分國ノ諸士出陳ノ
 用意ノ御動座ノ告ヲ待ヘキ旨觸促シ玉
 フ北條氏政モ此旨ヲ聞テ其勢三万餘駿
 武両口ヨリ甲州ニ攻入ヘシト云々
 ○十二日 織田信忠濃州岐阜ヲ發シ同

國出田ニ刻ル勝頼傳ハ聞テ大ニ驚キ信
 州筑摩郡深志ノ城ヲハ馬場民部丞昌房
 多田治部右衛門横田甚五郎尹松ヲ以テ
 守ラシメ伊奈郡高遠ノ城主仁科五郎信
 盛へ援兵トメ同國佐久郡内山ノ城主小
 山田備中羽切九郎次郎渡邊金大夫照小
 菅五郎兵衛元成ヲ遣ハシ伊奈郡大島ノ
 城將日向玄東齋へハ伯父ノ逍遙軒安中
 左近春隆小原丹後依田能登ヲ加へ同郡
 飯田城將保科越前正直坂西織部力方へ

ハ小幡因幡波多野源左衛門ヲ加勢トシ
 駿州持船田中ニ兵ヲ倍シ鞠子ノ城ニ諸
 賀兵部ヲ竈置信州伊奈口三日路ノ間ハ
 東山道第一ノ難處タル故爰ニテ尾濃ノ
 兵ヲ支ント伊奈ノ下條伊豆信氏同兵庫
 平谷瀧澤ヲ要害ニ構へテ屯スル所ニ其
 一族下條九兵衛從士佐々木某原民部市
 岡某熊谷玄蕃等相叛テ寄手ノ先鋒瀧川
 一益毛利河内守秀頼ニ通シ川尻與兵衛
 鎮吉力勢ヲ引入ケレハ寄手サシモ機遣

ヒシケル嶮岨ヲ輒ク越ルニ下條信氏
 這々遁レ去松尾ノ小笠原掃部助信嶺ハ
 廿餘年武田ニ屬シ信玄カ姪婿トメ腹心
 ノ臣ト憑ケルカ是モ信長ヘ降ルヘキ旨
 約シケレハ信長衆團平八景春森庄藏長
 可妻児口ヨリ攻入晴多賀寺筋木曾峠ヲ
 越テ梨子峠ニ押登ル所信嶺手合トシテ
 所々ニ煙ヲ發ス勝頼ニ万許諏訪ニ屯シ
 軍議入ト云ヘ任其謀決セス
 ○十三日 信忠濃州高野ニ到ル

○十四日 信忠岩村ニ進ム信州飯田ノ
 城將保科越前正直坂西織部ヲ始メ今宵
 城ヲ避テ走ル
 ○十五日 森庄藏伊奈郡市田迄旗ヲ進
 メテ飯田ノ敗兵ヲ追撃シ首十餘級ヲ獲
 ル是今度ノ軍首級ヲ得ル初メナリ勝頼
 防戦ノ長僉議ニ日數ヲ送リ寓然トシテ
 上ノ原ニ屯シ軍議ヲ凝ス所典厩信豊モ
 病ト称シ其席ニ至ラズ城織部昌茂阿部
 加賀夜軍セント請フ奸臣是ヲ拒ム

○十六日 遠州小山ヲ守ル武田番手ノ
 勢城ヲ奔テ奔ル勝頼今日今福筑前ヲノ
 信州鳥居峠ニ向ハシム木曾義昌並ニ信
 長ノ援將苗木ノ久兵衛友政大ニ闘勝テ
 敵五百七十餘ヲ討取其内有賀備後小山
 田左京跡部治部ヲ始メ宗徒ノ士四十餘
 人カ首ヲ織田信忠ノ許ニ遣ハス處感状
 ヲ贈リ義昌カ援兵トメ又織田源五郎長
 益津田赤千代同孫十郎信次稻葉彦六郎
 貞通梶原平次郎塚本小大膳小野木藤次

郎築田彦四郎丹羽勘介氏次ヲ木曾ニ赴
 カシム各義昌ト共ニ鳥居峠ヲ抱ヘ守ル
 勝頼方ヨリ木曾ノ壓トメ深志城ニ馬場
 民部丞昌房多田治部右衛門横田甚五郎
 尹松楯籠リ空ク日ヲ歷ルト云々

○十九日 神君牧野城ニ 著御諸軍ハ
 駿州島田金谷ニ進ム

○廿日 拂曉ヨリ 御當家ノ先鋒大須
 賀酒井本多榊原駿州志田郡田中城ニ進
 テ大手ノ郭ヲ打破リ首八十餘級ヲ得テ

卷之二十一
 二
 二

城下ニ梟ノ主將依田右衛門佐信蕃且援
 將三枝土佐虎吉尚城ヲ守テ降ラズ是日
 信忠信州伊奈郡平谷波合ニ到リ飯田城
 ニ移ル同郡大島ノ城主日向玄東齋宗英
 夜中ニ逃亡ス

○廿一日 大島ノ地下人上方勢ヲ引入
 ュハ道遥軒没落ノ由川尻鎮吉注進ハ信
 長則回章ヲ授セラル

○廿二日 神君駿州ニ御發向先鋒既ニ藤枝迄進ム由ヲ聞テ菴原郡持船ノ城主朝比奈駿河政貞 長臣奥原日向數百人ヲ帥テ遠目峠ヲ越テ戰ノ 神君ノ魁將石川酒井本多大須賀榊原頻ニ與ルヲ擊破リ首八十餘級ヲ獲ル直臣石川又四郎重次初陳ニ魁ニ須藤左門ト云剛兵ヲ鎗付其首ヲ獲夕リ遠目ノ峠ヲ守リニ屋

代越中正國歩將關甚五兵衛鞠子ヲ守ル諸賀兵部甲州へ走ル

○廿三日 神君持船ニ御著陳則先軍五將ヲシテ城郭ヲ攻テル

○廿五日 駿州菴原郡江尻ノ城ヲハ甲州下山ノ領主穴山梅雪齋相成ル所ニ神君此間長坂血鎗九郎信政ヲ遣ハシ梅雪ヲ味方ニ招キ玉ヲ長坂敵城ニ七日留リテ利害ヲ說梅雪兼テ勝頼ヲ恨ル故鈞命ニ應シ間諜ヲ以テ彼甲府ニ在ル人

實今宵雨ノ紛レニ盜取セ坂東道三十里
ヲ歷テ居城ニ退カシメ自己モ今夜駿州
岩原ノ地藏堂ノ民家迄參向シ 神君密
ニ爰ニ 渡御アリテ拜謁ヲ遂ル
○廿七日 持船ノ城兵大畧落失ケレハ
城將朝比奈駿河和ヲ乞テ同國久能ノ城
ヘ退ク 神君松平主殿助ヲ以テ是ノ送
ラシメラレ久能山ノ城將今福丹波昌和
モ降ヲ乞フ故異儀十ク退去スヘキ旨本
多ハ藏秀玄ヲシテ御下知アリケルカハ

藏 相謀テ今福ヲ刺殺シ歸參ス久能
ヲハ寄合勢ニテ守ル故其隊頭歿シケレ
ハ悉ク逃亡シ城忽陥ル勝頼カ叔母塚元
山梅雪遂ニ叛心ノ色ヲ顯ハシ守ル所ノ
江尻ノ城ヲ避ケテ甲州下山ノ居城ニ歸
ル織田信忠信州飯島ニ在陳シ國中ヲ治
ントス士民頃年勝頼カ虐政ニ倦テ悉ク
信忠ニ隨ヒ嚮導ト成テ武田ヲ襲フ
○廿八日 勝頼カ一族典廐以下悉ク叛
キ己カ本領ニ引籠テ其勢多分落失ヒ信

卷之二

州諏訪上ノ原ニ屯シ難ク甲州新府ニ引
入ル是日信長川尻鎮吉ニ書牒ヲ送ラル
是ハ鎮吉カ信忠ノ先鋒トシテ深ク敵地
ニ進ム故ナリ

○廿九日 神君ノ勢持船ノ城ニ入テ是
ヲ守ル

三月大

○朔日 神君江尻ニ著御兼テ成瀬吉
右衛門正一ヲ田中ノ城將依田右衛門佐
信蕃カ方ヘ遣ハシ甲陽ノ諸臣皆叛キ勝
頼凶ン事日アルヘカラス早ク城ヲ渡シ
味方ニ降ルヘキ旨ヲ命セラル依田義
有テ是ニ從ハスノ曰武田棟梁ノ臣等カ
書簡ヲ得テ虚實ヲ決シ其後ハ先年遠州
ニ股城ヲ渡セシ其有縁ヲ以テ大久保忠
世ニ城ヲ避渡サント云々 神君大ニ感



大久保忠世ニ城ヲ避渡サント云々 神君大ニ感

シ玉ヒ穴山カ方ヨリ書簡ヲ送ラセラル
 信蕃疑ヲ散シ城郭ヲ大久保ニ渡入于時
 味方ニ屬セハ信州ノ本領相違十少宛行
 フヘキ旨命セラレ所ニ依田ハ勝頼存
 込未タ知ラヌ渠亡ヒハ忽ニ徳川家ニ
 仕ヘン由ヲ述テ本國信州仕久郡蘆田ニ
 赴カントス田中ノ城兵小股平内左衛門
 政重等神君ニ屬ス今日信忠信州伊奈
 郡沼原ニ到テ高遠城ヲ一日ニ屠ル勝頼
 カ弟仁科五郎信盛小山田備中渡邊金太

夫照羽切九郎次郎等ノ逞兵四百摠テ二
 千五百八十餘人ヲ討捕畢又

①高遠城中將卒凡ニ義死スル事武家
 閑談ニ委シク見ユル

○二日 騎士十五人輕率二十人ノ隊長
 曾根下野正清等モ其守ル所ノ駿州興國
 寺ノ城郭ヲ 神君ヘ献シ味方ニ屬スヘ
 キ由ヲ達ス駿府ノ城衛武田上野介信龍
 同左衛門大夫信光城ヲ避テ甲陽ニ走ル
 工ヘ 神君駿府城ニ入玉フト云々

○三日 信忠諏訪上ノ原ニ屯シ諏訪神
 祠ヲ始所々ヲ放火ス上野ノ國士安中左
 近春隆始メハ信州大島ノ城ヲ守リ今既
 =高島ノ城ニ據ト雖高遠ノ堅城陷リ其
 兵鑿ニ及フ由ヲ聞テ城ヲ津田源三郎勝
 長ニ渡ノ信忠ニ降ル木曾能鳥居峠ヨリ
 向フ上方勢深志 表へ亂入セシカ
 ハ當城ヲ守ル馬場民部丞昌房城ヲ織田
 源五郎長益ニ渡シ離散シ比企ノ城主小
 尾周防ハ城内ニ戦死ス嚮ニ勝頼高遠以

下ノ落去ヲ聞テ其兵僅三千許新府ノ城
 ヲ保ツ事アタハス真田昌幸カ上州吾妻
 ノ城ニ退カント欲シ豫シメ真田ヲ飯シ
 ケルカ長坂釣閑堅ク是ヲ止ルユへ小山
 田右兵衛尉信茂カ甲州都苗郡ノ領邑ニ
 赴キ嶮ニ據テ拒キ守ント欲シ先立テ信
 茂ヲ遣ハノ其妻妾伯母妹等女姓二百人
 一族郎従五百餘人新府ヲ發ス于時叛臣
 木曾力質子ヲ殺シ其外逆心ノ者ノ質子
 三百餘ヲ新府ノ本城ニ入テ悉ク燒殺シ

忠節ノ士カ質子僅十人許ニ金銀ヲ與ヘ古府ノ一條右衛門大夫信就カ亭ニ暫ク退居スル所地下人郷邑ヲ焚テ山中ニ逸レ竄ル故今三日勝頼古府ヲモ避テ一條小路ヲ過ル時駿州先方ノ士其微行ヲ笑フ勝頼怒テ是ヲ斬ラシム小縣昌景カ遺息二人其部下廣瀨美濃昌房三科肥前形幸于今從ヒケルカ勝頼疑テ三科廣瀨ヲ去ラシム小幡豊後昌盛病ニ嬰リ漸ク勝頼ニ謁シ涕泣ノ退キ同六日黑駒ノ食邑

ニ歿ス

勝頼惠林寺ニ赴ク

寺僧拒キ入ス敵急ニ來ル由ヲ聞テ韃村ノ万福寺ト云一向宗ニ山縣源四郎同左兵衛ヲ殘シ纔五百人鶴瀨ニ至リ駒迎ノ郷ニ向テ小山田力迎ニ來ニヲ待テ七日迄爰ニ止ル

○四日 穴山梅雪江尻ヨリ來テ 神若ニ拜謁シ貞宗作ノ太刀及ヒ馬鷹ヲ獻ス

○五日 神君ノ部將酒井左衛門尉駿州

蒲原ニ著陳昨今兩日ノ間ニ參遠ノ兵蒲

原ニ至ル今日織田信長大軍ヲ帥テ江州
 安土ノ城ヲ首途ニ相原ニ宿陳ト云々
 ○六日 信長濃州呂久川ノ渡リニ至ル
 所信忠ノ使者仁科信盛カ首ヲ持來ル則
 是ヲ濃州ニ遣ハシ長良河原ニ梟スヘキ
 旨下知メ信忠ノ使ニ黄金ヲ授ク甚雨故
 今宵ハ岐阜ニ逗留ト云々
 ○七日 神君ノ諸勢興津ニ屯ス今日信
 忠上諏訪ヨリ古府ニ至リ一條信就カ舊
 館ニ在テ退キ後レタル武田カ氏族宗徒

ノ臣ヲ捕ヘシム
 ○八日 味方先陳ノ五將酒井石川本多
 大須賀榊原等駿州井出ニ至リ河内ヲ經
 テ進ンテ甲州西郡万沢ニ屯シ 神君ハ
 興津ニ御旗ヲ建ラル井出ノ郷人齋藤弥
 右衛門嚮導セシ由ヲ述ル 神君感シ玉
 ヒ永ク公俊ヲ免許シ五ノ今日信長尾州
 犬山ニ至ル
 ○九日 神君御旗本ヲ万澤ニ移サル穴
 山梅雪ヲ嚮導トメ先隊ノ五將遂ニ身延



二進之八代ノ文殊堂市川口ヨリ亂入ス
 今宵小山田右兵衛尉ハ同苗ハ左衛門塙
 ノ武田左衛門大夫信光且小菅五郎兵衛
 元成ヲ以テ己カ人質ヲ奪ヒ取駒迎ノ東
 方篠子ニ兵ヲ賦シ鶴瀨柏尾ニ向テ柵ヲ
 設ケ火炮ヲ發シケレハ武田家ノ佞臣長
 坂跡部ヲ始メ悉ク落失畢又信長今夜ハ
 濃州金山城ニ宿陳ト云々

○十日 勝頼多葉山ヲ歷テ武州ノ日原
 越秩父ヲ過テ上野ニ赴ント欲シケルカ

秋山攝津小山田將監ヲ始メ逃亡ス且奴
 僕尸ル事十シ出屋摠藏秋山紀伊籠ト十
 ル阿部加賀温井常陸鎗ヲ持テ從テ小宮
 山内膳友信讒間ニ陷テ蟄居シケルカ義
 ヲ守リ來リ從テ都留郡天目山ハ信玄宗
 敬ノ道場嶮難ノ地故彼山ニ登リ勞ヲ休
 メ旅行ノ用意セントテ山梨郡駒迎ノ郷
 ヲリ十六町隔テシ鶴瀨ノ關ヨリ笛吹川
 ニ副テ北ニ向ヒ都留郡田野村ニ著シ先
 達テ甘利甚五郎大熊新右衛門ヲ天目山

二遣ハス今日 神君甲州市川ニ 著御
御家人成瀬吉右衛門正一先年浪客ト成
信玄ニ仕ヘシ時甲陽巨摩郡武川ノ諸士
小睦シカリシ故 命ヲ蒙リ武川ニ往ケ
ルカ皆逃亡ノ更ニ人十シ成瀬ハ武川ノ
士早ク市川ニ来リ愚臣ニ探テ 徳川家
ノ臣ト成ヘキ旨門戸ニ書記シテ市川ニ
歸ル蓋シ 神君ハ恩惠ヲ以テ下ヲ御シ
法制ヲ以テ衆ヲ督シ亂ヲ救ヒ暴ヲ誅シ
民ヲ安ンシ玉フ聖文勇武ノ徳敵國ヲ感

卷之二十一
書中
徳川家

化シ兼テ羽旄ノ到ルヲ待テ靡キ從ント
欲シケレハ武川士ノ長折井米倉六ニ歡
テ疑ノ意ナク今夕兩人急ニ市川ニ赴キ
謁ヲ執テ早速旧郷ニ飯リ諸士ヲ諭シ各
質子ヲ獻セシムト云々
○十一日 神君ハ穴山梅雪ヲ携ヘ信忠
ノ陳所山梨郡古府ニ 渡御御對顔畢テ
信州諏訪ニ赴キ玉ヒ御宿陳アリ信忠
魁首瀧川左近將監川尻與兵衛北畠信雄
ノ陳代津川玄蕃允義冬勝頼カ行方ヲ深

徳川家
書中
信忠

夕尋ケルカ都雷郡田野ノ觀音堂一在ト
 聞テ今巳ノ刻彼處へ兵ヲ發入且甘利甚
 五郎秋山攝津大熊新右衛門却テ信忠
 屬シ天目山關山派ノ僧徒並ニ小山田右
 兵衛尉カ勢ト共ニ押寄レハ辻村ノ地下
 人一揆ノ五千許後ノ山ヨリ攻來ル此時
 勝頼勇將ト雖去ル三日以來所々ヲ流落
 シ大ニ疲勞ノ戦フヘキ躰ナシ勝頼即小
 原丹後ヲメ其妻ヲ害シ其外婦女十人許
 悉ク刺殺シ漸ク生膚ニテ拒キ闘フ然レ

在其嫡男太郎信勝生質聰敏勇敢ニノ容
 兒美麗也十文字ノ鑓ヲ揮テ三度迄突出
 ル瀧川カ臣津田小平次長興稻生對馬貞
 置其弟儀左衛門頻ニ攻撃出屋惣藏カカ
 ヲ矢ニテ儀左衛門命ヲ失フ對馬貞置カ
 馬モ矢ニ中テ殪ル于時勝頼カ馬放レ來
 ル貞置是ヲ得テ乘ル勝頼ハ鎧櫃ニ腰ヲ
 掛ケ瀧川カ臣伊東伊右衛門長光ト太
 討ノ首ヲ獲ラル瀧川儀大夫ハ土屋惣藏
 ヲ討捕其餘皆爰ニ死歿ス

武田四郎勝頼
信勝

同太郎
勝頼ノ正室

家臣

土屋總藏昌恒

河村下總

安部加賀

温井常陸

跡部

尾張

小宮山内膳友信

助六郎昌義

小山田平

左衛門國則

同掃部助義次

同弥助

同於兒

秋山紀伊

同木工助

小原丹後

同下

總

安西伊賀

岩下總六郎

秋山源三景氏

同惣

九郎

同民部

同宮内

原源五左衛門

多田久藏

齋

藤作藏

小原下野

山野居源

藏

神林清十郎

小原清次郎

有賀善左衛門

土屋源藏

窪澤治大夫

皆井小助

貫

名新藏

卷之二
書中

享保辛亥勝頼百五十四忌福追ノ為ニ甲陽ノ舊臣等カ苗胤ヲ勸化セントテ田野ノ景德院ノ住僧カ携ヘ來ル過去帳ノ如斯ト云々惣テ三十三人十リ

○相傳フ勝頼ト死ヲ共ニスル族右三十三士ノ外小原忠五郎 小山田大學 高尾伊賀多田角助寺島藤義 又一郎甘利采女同彦五郎川村五兵衛 曾根内膳安田十郎左衛門同源三郎雨宮織部同善次郎小尾五郎助同十兵衛

淺羽右近麟岳和尚 弟子圓首坐

等ト云々今按スルニ田野ニ於

テ勝頼カ死ニ殉フ者三十三人ニシテ殘レル所ハ天目山下所々ニテ命ヲス故ナルヘシ

○或説曰田野ニ於テ勝頼室ヲ小田原ニ往シメントス于時室家ハ吾弟三郎景虎越國ニテ景勝ト勝敗ヲ決スル長坂跡部カ奸計ニ當リ金銀ヲ貪テ土地ヲ合セン事ヲ悦ヒ故ナクシテ景勝

ニ荷擔シ三郎ヲヒキントセラシ時
 幾回カ諫ヲ十スト雖承引十ク景虎ヲ
 失ハル爰ヲ以テ北條家ノ恨骨髓ニハ
 シ畢又今何ノ面目有テ小田原ニ往ン
 マトテ附属ノ士早野内匠助劔持但馬
 清水又七郎ニ遺物ヲ授テ小田原へ歸
 ス于時劔持一人道ヨリ引返シ勝頼ニ
 婦ト死ヲ共ニスト云々

○辻家傳ニ弥兵衛盛昌ハ勝頼ニ罪ヲ
 得テ天正三乙亥年七月甲州ヲ奔リ信

州小諸ノ與良遠江カ許ニ蟄居シ勝頼
 歿後 神君ニ仕へ奉ル事歴然タリ甲
 陽軍鑑ニ勝頼勝治へ赴ク時迄廣瀬三
 科辻弥兵衛扈從シケルカ辻ハ一擧
 長ト成テ田野ヲ攻ルト云ハ大ニ非也
 甲州東郡ニ辻一族多ケレハ其内一擧
 ノ長ニ成テ弥兵衛カ名ヲ冒シ勝頼ヲ
 攻ケルカト云々

○世ニ摠テ稱美スル處小呂山内膳友
 信ハ護臣ノ為ニ勝頼ニ勘發セシレ蟄

居セシカ田野へ尋来ル勝頼且惑シ且
耻テ厚ク是ヲ謝シ死ニ殆シム後日
神君甚小宮山ヲ悼惜セラレ其弟又
郎昌吉十九歳十リシヲ召テ祿ヲ賜フ
盖シ勝頼父子力歿田野ニ在下雖信長
ヲ恐レ惠林寺ヲ始メ取次メントスル
僧徒十シ然ルニ田野ヨリ西北行程ヨ
里ヲ隔テ中山ト云處ノ甲州洞家ノ僧
録廣嚴院彼地ニ往テ勝頼夫婦信勝並
ニ殉死ノ骨骸ヲ聚メ葬ル此秋神君

卷之二十一
畫中

甲信兩國ヲ掌握ニ入玉フ後一字ヲ建
立シ玉ヒ天童山景德院ト號シ七十五
石ノ田ヲ寄附アリテ彼小宮山内膳カ
弟ノ僧ヲ以テ住職トセラル
○曾根下野正清ハ六年以來菅谷九右
衛門行清ヲ以テ信長へ密旨ヲ通シ穴
山木曾小笠原掃部助等ハ降人ノ最初
十レハ各其功ヲ憑テ本領安堵ヲ求
モ其謂レ十キニ非ス今度込國ノ期ニ
勝頼ヲ叛ク其一門足社掾ノ臣一命ヲ

卷之二十一
畫中

助カラント悲クモ肥馬ノ塵ヲ望ミ同
朋仕丁ニ跪キ媚詔ヲ事不科ト云々

○十二日 信忠ハ武田父子力首ヲ實於

シ瀧川一益ニ吉光ノ脇指良馬 黄金

五百兩ヲ授ケ是ヲ賞ス

○十三日 神君諏訪ヨリ市川ノ陳館ニ

歸御是日信長甲州根羽根ニ到ル所越中

國ヨリ羽書來テ敵兵去ル頃偽テ信長父

子甲信ノ境ニ於テ武田力為ニ大ニ利ヲ

失ヲ由ヲ称シ一揆覽ヒ起テ富山城内ニ

於テ國人小島六郎左衛門唐人民部是ニ

與シ當十一日城將神保越中守氏春ヲ木

丸ニ押籠メ城既ニ一揆ノ掌ニ入依之柴

田佐々前田佐久間玄蕃允盛政等忽越中

へ發向スト云々

○十四日 信長平谷ヲ經テ波合ニ到リ

玉ヲ所信忠ノ兩使來テ勝頼父子力首級

ヲ献ス信長大ニ歡テ曰羽林出陳シ三十

日ヲ過スノ甲信ヲ征伐シ敵將ノ首級ヲ

得ル事其功比倫ナシトテ兩使ニ福富平

左衛門定次ヲ添テ古府ニ遣ハシ雄劍
良蹄 美服百領信忠ニ贈ラレ且兩

使關嘉平次桑原助六郎ニ毛駿馬ヲ與ヘ
ウル是日 神君ノ氏族大給ノ松平左近

大夫真乘享年三十七歳ニノ卒ス其子源
次郎八歳ニノ家督ヲ繼トム

○十五日 信長伊奈郡飯田城ニ入勝頼
父子力首ヲ爰ニ梟ス事三日ト云々

○十六日 信長甚雨故飯田ニ逗留ノ處
下曾根覺雲軒ヨリ武田左馬助信豐力首

ヲ獻ス此信豐ハ信玄力弟故典厩信繁力
子ナリ此度信豐父子郎從廿騎許ニテ佐

久郡小諸ノ城ニ落来ル所ニ覺雲軒是ヲ
欺キ二丸迄呼入輒ク攻殺ス于時從士朝

比奈孫四郎及ヒ百井等信豐ヲ勸メ惣テ
十一人潔白ニ死歿スト云々信長長谷川

宗仁ニ課セテ勝頼父子仁科五郎信盛典
厩信豐等力首ヲ洛陽ニ登セ獄門ニ梟セ

シム

○十七日 信長伊奈郡大島ヲ經テ飯島

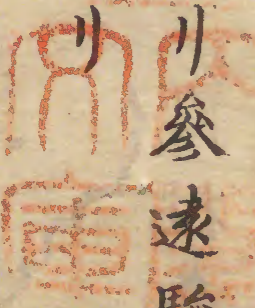
二列ル

○十九日 信長上ノ諏訪法養寺ニ著陳
 暫ク滯雷アリ大小名廿二人馬廻健士弓
 鍔炮ノ輕卒ノミ在陳スヘシ其餘ハ暇ヲ
 賜ハルト云々此頃信長舎弟源五郎長益
 森庄藏長可ヲ上州嶺ノ城上小幡上総介
 信真カ方ヘ遣ハシ利害ヲ説シメ遂ニ降
 參セント領承ス抑今度楯下ニ勝頼ヲ叛
 キシ故信玄カ舎弟信綱入道逍遙軒ヲハ
 森長可カ從士各務某信長ノ命ニテ立石

ニ於テ誅シ同伯父一條右衛門大夫信就
 ハ 神君ヨリ市川ニテ死ヲ賜ハリ彼信
 就カ館ニテ長坂釣閑父子戮セラル同伯
 父武田上野介信龍同左衛門大夫信光勝
 頼カ弟葛山十郎義久及ヒ小山田右兵衛
 尉信茂同八左衛門昌時小菅五郎兵衛元
 成朝比奈兵衛太夫信置 ヲ新善光寺
 ニテ誅セラル諏訪越中頼豊小山田出羽
 秋山攝津同内記大熊備前朝秀清野美作
 今福筑前山縣源四郎等伊奈郡所々ニテ

誅セラル跡部大炊信元ハ諏訪ニテ戮セ
 ラル諏訪刑部同采女ヲハ參州段嶺長篠
 ノ里民等是ヲ斬ル飯狹間右衛門往年美
 濃明智ニ於テ叛逆シ坂井越中守一族ヲ
 討捕テ武田ニ倚賴ス今度信長則越中守
 ヲ以テ渠ヲ殺サレ剩ヘ此度勝頼ヲ叛カ
 サル輩ト雖武田ノ臣ヲ諸將ヘ召抱ヘカ
 ラス殊ニ勇名アル者ハ咸死刑ニ及フヘ
 キ旨信長下知セラル 神君且ハ惜ミ且
 ハ憐レミ玉ヒ信州蘆田ノ依田右衛門佐

信蕃ヲ此間市川ノ御陳ニ召寄ラレ密旨
 ヲ諭シ主従六人遠州城飼郡二股ノ奥小
 川村ニ蟄居セシメ三枝土佐虎吉ヲハ駿
 州藤枝東雲寺ニ隠サレ各 神君ヨリ俸
 米ヲ賜ハリ巨摩郡武川ノ諸士ハ遠州桐
 山ノ辺ニ蟄居シ岡部次郎右衛門正綱渡
 邊囚獄守 ヲ始メ甲信先方ノ士
 神君ノ仁惠ニ依テ扶助ヲ蒙リ參遠駿ノ
 間ニ潛居シ時ヲ待者若干十



卷之二十一
二
六
畫中
臣
彦

